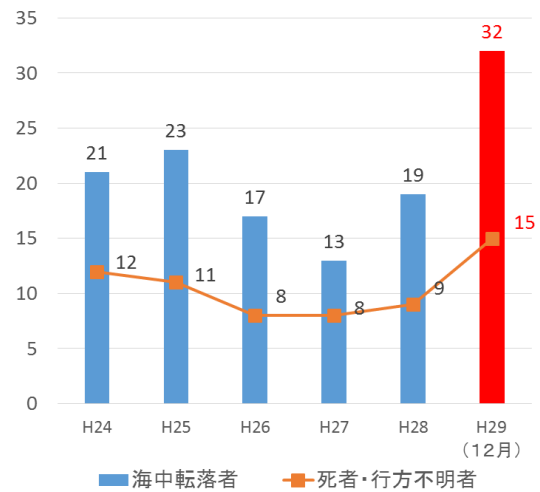
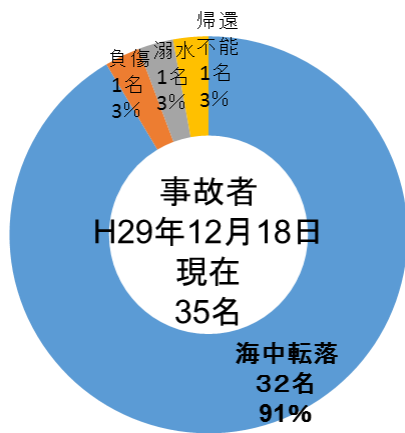


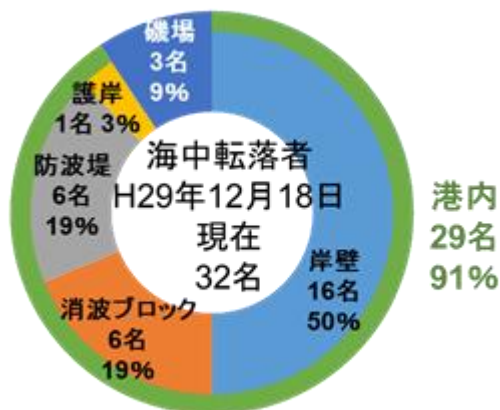
(2) 釣り中の事故の9割以上が海中転落

釣り中の事故者は、12月18日現在で35名となっており、そのうち32名が海中転落であり、また、32名中15名が死亡しており、統計の残る平成13年以降過去最多となっております。



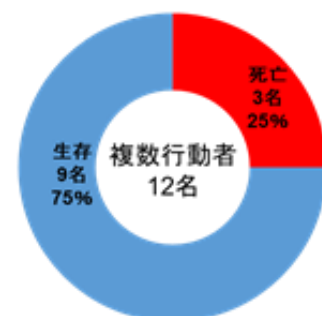
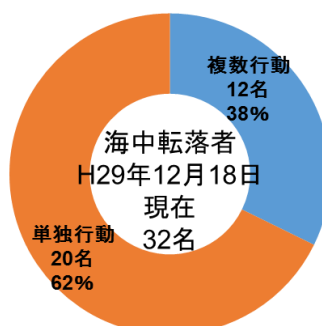
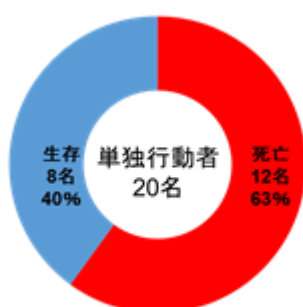
(3) 発生場所は約9割が港内

釣り中の海中転落の発生場所は、32名中29名の約9割が岸壁や消波ブロック、防波堤などの港内で発生しております。



(4) 単独行動者の死亡率は複数行動者の約2.5倍

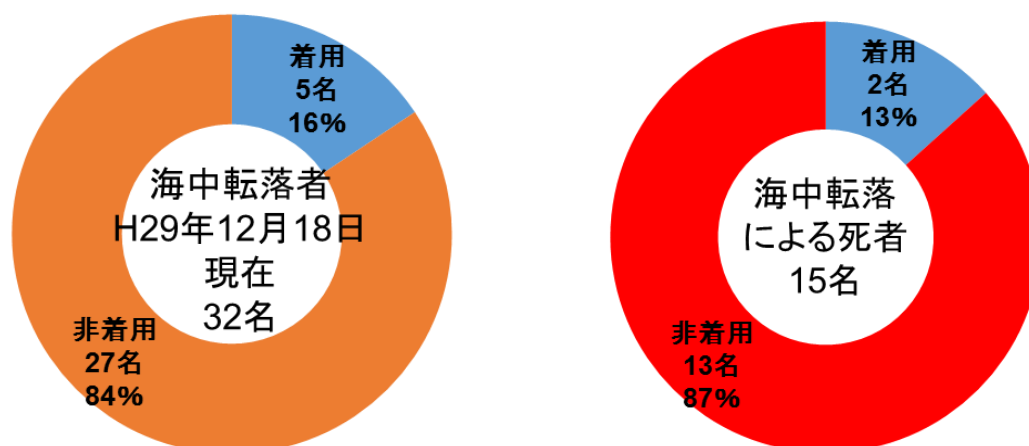
釣り中の海中転落者の行動形態別では、32名中20名が単独行動、12名が複数行動であり、死者は単独行動が12名、複数行動が3名となっており、死亡率でみると単独行動の6割に対し、複数行動は2割と、単独行動者は複数行動者の約2.5倍の死亡率となっております。



(5) ライフジャケットの着用率は約2割

釣りによる海中転落32名のうち、ライフジャケットの着用者はわずか5名で着用率は2割となっており、10年前の調査に比べ約10倍にはなっているものの、依然低い着用率となっております。

また、死者15名中13名がライフジャケット未着用となっております。



2 安全対策

釣り中の海中転落事故が多発していることから、年末年始特別警戒及び安全指導に併せて、平成29年12月10日から平成30年1月10日の間を重点期間として、釣り人に対し以下の3項目について安全指導を行うとともに、関係機関による連絡会議を開催のうえ、有効な対策を協議し、連携して釣り人の事故撲滅を図ることとしています。

(1) 港内の危険性

釣り人の海中転落事故は、岩場等の特別な場所ではなく、9割が防波堤や岸壁で発生しており、その多くの方が亡くなられている事実を釣り人に周知し、港内であっても命を落とす危険性があることについて安全意識の高揚を図ります。

(2) 複数行動の励行

単独行動者の海中転落による死亡率は、複数行動者の2.5倍となっており、これは、単独行動者の場合、発見から通報、そして救助の遅れに繋がるためです。単独行動は避け、複数行動の励行を図ります。

(3) ライフジャケットの着用

ライフジャケットの着用率は依然として低いことから、海中転落を他人事とせず、万が一に備えたライフジャケットの常時着用について、啓発用のオリジナルリーフレットを作成し、釣り人への呼びかけとともに配布、安全啓発を行います。